

事例①: Y. Tさん

- 女性 83才
- 要介護3
- 障害高齢者の日常生活自立度 A1
- 認知症高齢者の日常生活自立度 III B
- 既往歴
白内障・糖尿病
平成24年 脳幹梗塞
平成25年 腰椎圧迫骨折

事例①: Y. Tさん

平成26年12月 入所

入所当初はホールにて他利用者さんと一緒に過ごしている印象が強かった。

しかしながら、

平成27年4月中旬には、

1階の居室にて過ごしている事が多い。

ホールで過ごしている時には、マスクを着用している事が多い。

入所当初、

自立支援委員会(経口維持カンファレンス)では、

義歯作製ができると、

安全に食事ができる。
食事形態の検討もできる。

と話し合っていたが、**義歯作製はできない**(歯肉が狭いため)との事であった。

しかしながら、家族の強い思いもあり、

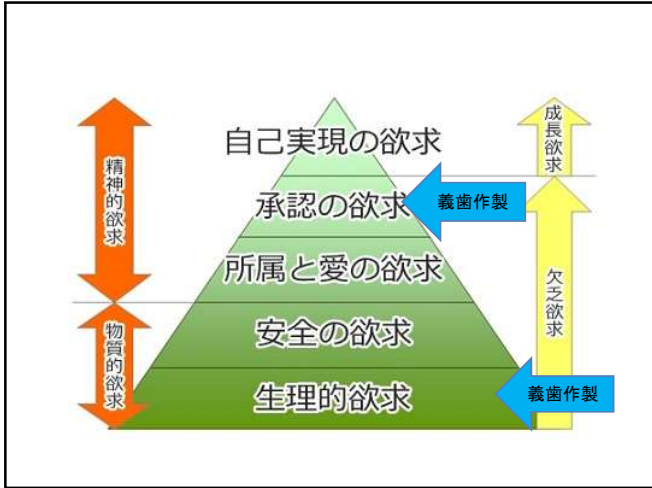
平成27年1月27日 義歯の作製を行う事となった。

3月30日 義歯が完成した。
～義歯の調整を繰り返す～

6月26日 おやつに、ゼリー食から変更し、お饅頭を提供する。
「お饅頭、美味しい」と。

6月27日 「普通の食事が食べたい」と。

～素顔(マスクなし)で過ごす事が多くなった～

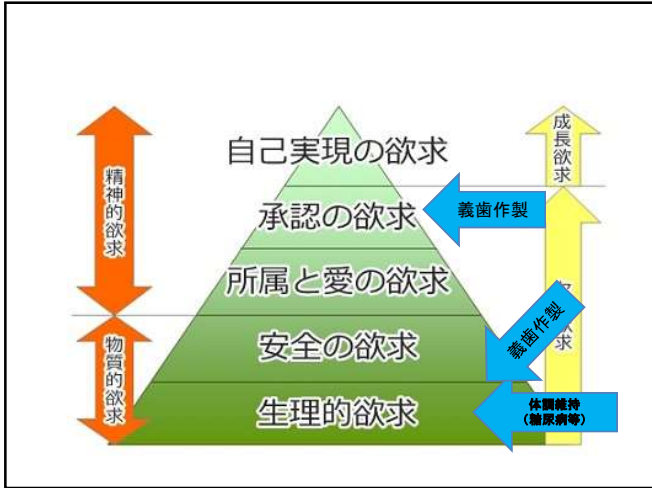


8月12日 血糖値の安定

血液検査の結果医師より・・・

「糖尿病のヘモグロビンの方は良くなってきた。すごい！」

HbA1c 入所時 6.8 → 6月 5.6



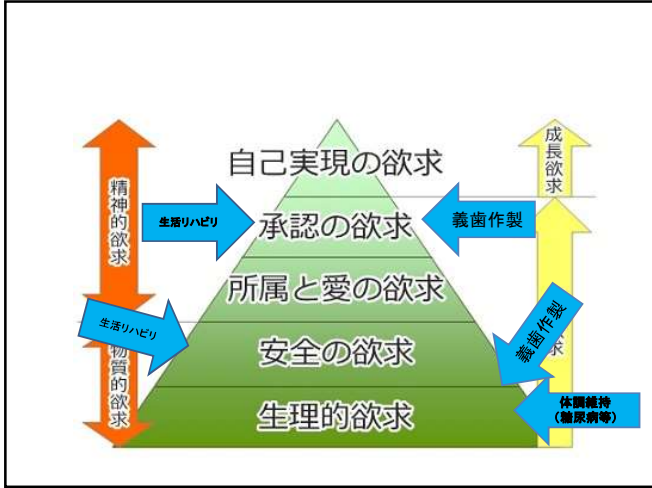
しかしながら、体調が安定しない時もあった。

平成27年8月18日～27日
磐田病院に入院 心肥大
平成27年10月5日～17日
磐田病院に入院 尿路感染・腎盂腎炎

入院に合わせ、食事形態も変更を繰り返した。

9月7日
全粥→軟飯 超刻み食→刻み食
10月17日
ソフト食
12月
本人の希望 ソフト粥→全粥 ソフト食→超刻み食
平成28年2月24日
超刻み食→刻み食

しかしながら、本人のやる気、シルバーカーで歩行する等、生活リハビリを継続した。レクリエーションが好き(カラオケ等)

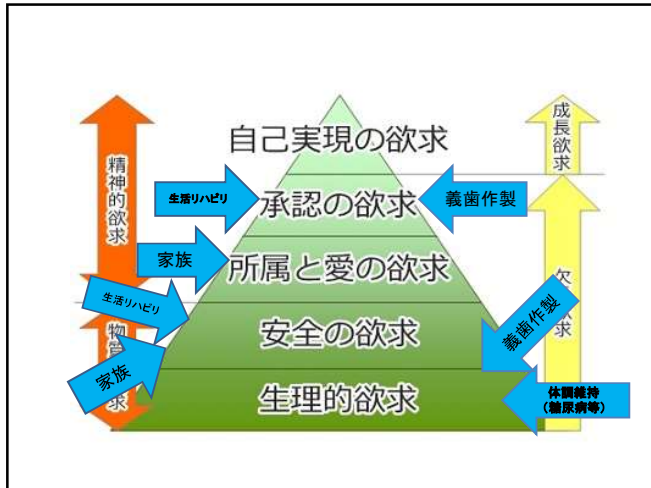


家族のバックアップ

実は面会時等には、家族に「家に帰りたい・・・」と気持ちを伝えていた。

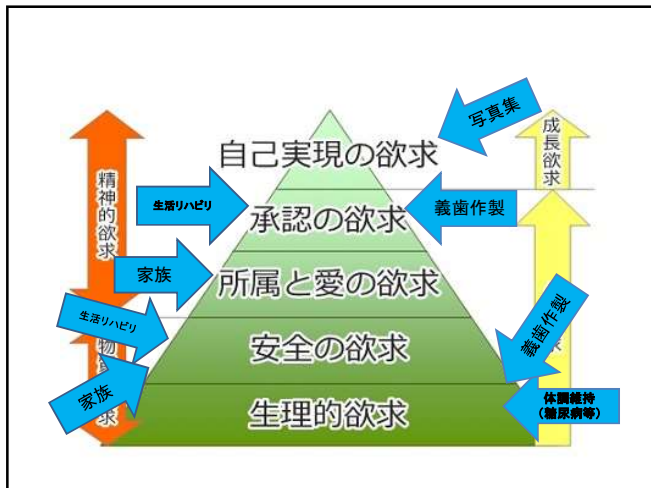
義歯作製のための受診 1月27日～6月27日
真珠性外耳炎の受診 1月30日～4月23日

家族:「家に帰りたい」と言う事がなくなった。



平成28年3月 誕生日

家族から写真集をプレゼントされる。写真集を眺めながら、「きれいな景色だね。私もここに行ってみりたいな。」と言っている



事例②:M. Yさん

- 男性 88才
- 要介護3
- 障害高齢者の日常生活自立度 A2
- 認知症高齢者の日常生活自立度 IIIA
- 既往歴
60才 脳出血→左半身麻痺
高血圧・胃潰瘍

事例②:M. Yさん

- 平成24年5月入所
食事が全量摂取できていなかった。

理由を本人に確認すると、「夜間、便失禁をしてしまうので、食事をあまり食べたくない」と。

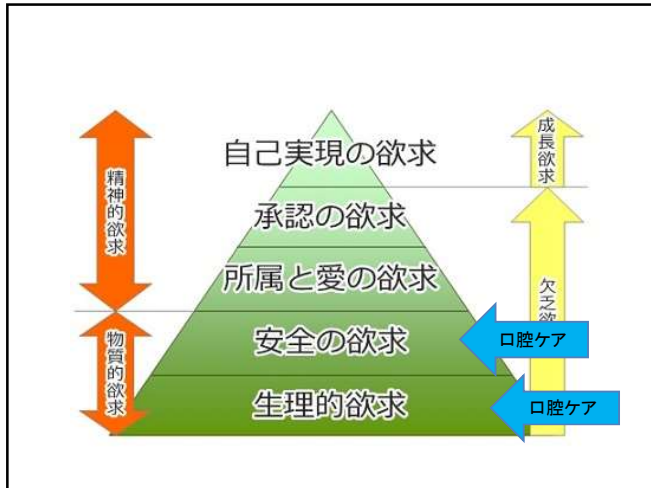
自立支援委員会(経口維持カンファレンス)だけでなく、ケアカンファレンスでも問題点として検討をしていたが、本人の意思もあり、決定的な対応策を見いだせていなかった。



その様な中で、咀嚼力の維持を図っていた。

- ケアワーカー等の見守りの中で、毎食後の歯みがきを確実にを行う。
- 歯科衛生士による口腔ケア 月4回 実施
- 平成27年8月22日
差し歯が取れた。歯科医を受診し治療をする。

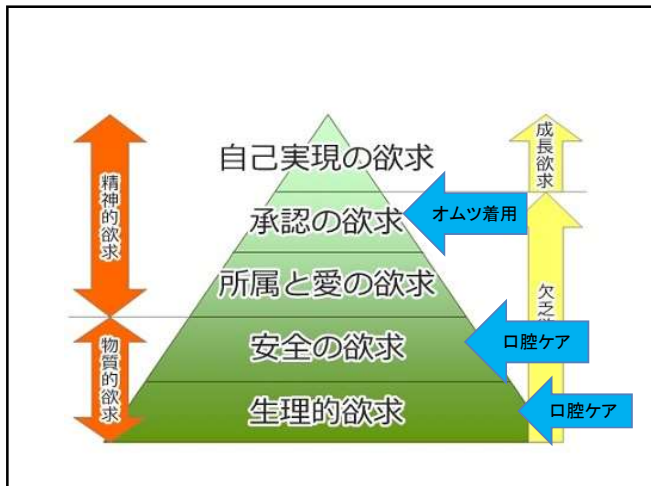




平成28年2月

本人から申し出がある。

「夜、トイレに行くのが寒いので、他の人と同じように、オムツを着けてくれないか」と。



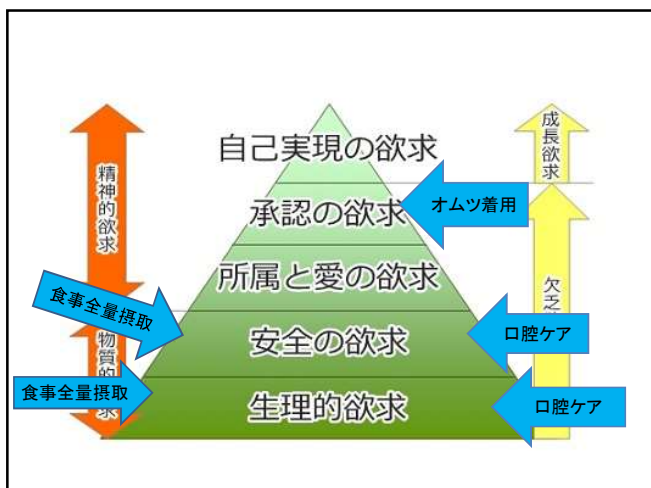
その結果、

食事が全量摂取ができるようになった。

平成27年8月:体重33.7kg

平成28年5月:体重36.7kg

3kgの増加



以前より、
体力が付いたのか、
身体の動きに安定感が出てきた。

「家に帰りたい」という訴え、
かつては、不安感からくる訴えだった。
今では、家に帰って過ごしても大丈夫。

という自信が背後にある。

事例①、事例②から、

自立支援とは、

本人が、
自分に自信を持つ事ができる支援

と考える。

そのためには、

- 体力・体調維持(既往歴・現病歴の把握)
経口維持(義歯作製・食事全量摂取)
口腔ケア(個々に適切な)

- 身体機能の維持
機能訓練(生活リハビリを含む)

- 家族(インフォーマルを含んだ)

家族を含めた、他職種間の情報共有。

→利用者個人に職員ひとりひとりが向き合う。

今後の課題

- 事例①、事例②ともに、家族の理解と協力により、夢の実現が可能であると考えます。
- その支援の継続と、効果のある新しい介入方法を検討・実施する、絶え間ない努力が必要である。

ご清聴ありがとうございました。